

2016年7月29日
マツダ株式会社

2017年3月期 第1四半期 決算発表

主な質疑応答

1. 2017年3月期 第1四半期の実績について総括してほしい。

2017年3月期第1四半期のグローバル販売台数は対前年1%増の37万5千台と過去最高の販売実績となりました。グローバルで販売が本格化したCX-3、新型MX-5/ロードスターの台数貢献に加えて、中国ではMazda3が販売を牽引いたしました。地域別では日本、北米で台数が減少する一方で、欧州、中国、その他市場での台数が増加し、前年を上回る販売実績となりました。

財務実績は、売上高は7,762億円、営業利益は524億円と、前年同期に対し9億円の減少、当期純利益は212億円となりました。連結営業利益の前年に対する主な変動要因は、新型CX-9の導入や販売好調なロードスターなどによる収益性の向上やコスト改善の進捗によるプラスの影響を、主要通貨に対して円高が進行したことなどによるマイナス影響が打ち消したものです。

2017年3月期通期の見通しについては、主要国での足元の経済環境変化の自動車需要への影響や、為替などの金融市場の変動を慎重に見極める必要があることから、販売台数、利益ともに据え置きといたします。今後は、状況を注意深く見ながら、為替対応施策の検討を進め、業績修正が必要であると判断した場合は速やかに開示いたします。

2. 今後の為替動向については円高が懸念されるが、対応策について教えてほしい。

為替変動の影響を受けにくい、高収益車種の販売拡大を図っていきます。春に導入を開始した、北米のCX-9、中国のCX-4といったクロスオーバー系の新型車の販売は好調に推移しています。また、今年度中に行う予定の防府工場でのCX-3生産移管準備も進捗しています。

その他の車種についても、大幅改良したアクセラを7月から日本から導入するなど、継続的な商品力の強化と正価販売で収益性を維持する計画です。

これら通常のオペレーションに加えて更なる対応策として、為替動向を見ながら日本/タイ/メキシコ間で生産をスイングさせることによる生産コストを最適化すること、為替変動幅の大きい特定地域では値上げで対応すること等が考えられます。コスト改善・固定費削減も従来以上に緩めることなく進めてまいります。

3. 英国の EU 離脱の販売に対する影響についてどう見ているか教えてほしい。

英国の EU 離脱により、欧州地域だけでなくグローバルでの影響が懸念されますが、現時点で販売に対する大きな影響は見られません。今後も各地域での全需、受注・在庫トレンド、競合状況等を注意深く見ながら、販売環境の変化があれば迅速に対応策を講じていきます。

以上